

議 長	副議長	局 長	次 長	書 記

(様式2)



令和元年 11月25日

香美市議会議員 比与森 光俊 様

会 派 名 市民クラブ
代表者氏名 甲藤 邦廣

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1. 日程
 - 令和元年11月11日～13日
2. 場所
 - 福島県郡山市・須賀川市・田村市・いわき市
3. 目的
 - 東日本大震災の被害状況、復旧状況、観光振興及び台風災害による被災状況についての調査。
4. 該当する政務活動費の使途項目
 - 調査研究費
5. 支出経費（内訳は裏面記載）
 - 737,590円
6. 参加議員名
 - 甲藤 邦廣・山本 芳男・為近 初男・小松 孝
利根 健二・山口 学・久保 和昭・萩野 義和
7. 調査研究成果の概要、所見
 - 別紙添付
8. 成果物、資料等
 - 福島県須賀川市藤沼ダムの復旧状況
 - 東日本大震災 福島県いわき市久ノ浜・大久保証言集
 - " 福島県いわき市久ノ浜・大久地区まちなか再生計画

(裏面)

支出経費の内訳と金額

区 分			金 額
交 通 費	鉄 道	自 羽田～郡山市 至 いわき市～羽田 8名 1 往復	1 2 3, 4 4 0円
	船	自 至 往復	
	航 空	自 高知龍馬空港 至 羽田空港 1 往復	3 2 6, 4 0 0円
	バス・ タクシー代	自 高速代金 3 0 0円×8名=2, 4 0 0円 至 2 5, 3 7 0円	2 7, 7 7 0円
	借上料	自 郡山市 至 いわき 往復 km	8 6, 4 0 0円
宿 泊 費		1 8, 4 0 0円×8名	1 4 7, 2 0 0円
参 加 費		取り扱い手数料 1, 5 0 0円×8名	1 2, 0 0 0円
駐 車 場 代			
資 料 印 刷 費		資料代700円 印刷費4, 0 8 0円	4, 7 8 0円
会 場 費		あぶくま洞入洞料1, 2 0 0円×8名	9, 6 0 0円
講 師 謝 金	謝礼金		
	鉄 道	自 至 往復	
	船	自 至 往復	
	航 空	自 至 往復	
	バス・ タクシー代	自 至 往復 km	
	宿 泊		
	食事代		
	借上料		
合 計			7 3 7, 5 9 0円
(特記事項) ※鉄道等内訳 羽田～郡山 いわき駅～羽田			

視察研究報告書（令和元年 11 月 25 日）

市民クラブ 代表 甲藤 邦廣

- 視察日時 令和元年 11 月 11 日～13 日
- 視察場所 福島県郡山市・須賀川市・田村市・いわき市
- 目 的 東日本大震災の被害状況、復興状況、観光振興・及び台風 19 号豪雨災害について
- 参加議員 甲藤邦廣・山本芳男・利根健二・小松孝・為近初男・萩野義和
久保和昭・山口学【計 8 名】（自由クラブ 1 名・公明党 2 名）

11 月 11 日 PM

郡山市内の震災被害については、全壊 2, 4 5 5 棟、半壊 2 1, 7 1 2 棟に及ぶ未曾有の大災害であった。表面的にはほぼ復旧されている様に見えるが、精神的な面でも、生計を立て、維持するうえでも苦労が続いていることは、容易に推察される。そこに、令和元年の台風 19 号の豪雨災害によりダブルパンチを受け、阿武隈川およびその支流の堤防の決壊・越水により郡山市だけで 6 名の死者、福島県全体で 30 名の死者が発生した。全壊家屋は 366 棟、半壊 1,827 棟、一部損壊 1,327 棟、床上浸水 11,872 棟、床下浸水 2,680 棟、農林水産業被害額約 619 億円、公共土木施設被害額約 1,390 億円であり、避難所は 8 市町村で 34 か所開設され、1,084 名が身を寄せていた。県内各所で道路網が寸断され、また、一部鉄道も被災し今後長期間にわたり復旧工事が行われることになる。住民は不自由な生活を余儀なくされているため、1 日も早い復旧が望まれる。

郡山市の水害現場

地元紙によると、罹災証明書の発行が大幅に遅れているようである。メインの道路は災害ごみ・ヘドロはほとんど取り除かれているが、公園、グラウンド等の公共用地には災害ごみが山積み状態であり、除去には、今後相当の長期間を要することが予想される。市内のクリーンセンター 2 箇所のうち 1 箇所は浸水被害により操業がストップしており、その処理能力が半減している状態である。

このため、環境省では広域での協力体制を呼び掛けているが、今回の災害はあまりに被害が広範囲にわたることから、その復旧、処理には相当な困難が伴うことが予想される。

水害は工業団地にもおよび、その操業も一時ストップしたとのことで、経済的なダメージも甚大である。

3 mほど水没した地域では、地元住民の話によると、昼間は住宅の跡片付け、夜間はアパート、親せき宅に身を寄せている人も多いという事で、生活再建という視点では今後まだまだ苦難が続くことが予想される。

11月12日 AM

須賀川市の藤沼ダムについては、貯水量150万m³で現在837HAの農地に灌漑用水を供給しているが、東日本大震災により堤体が決壊し、7名が死亡、乳児1名が未だ行方不明、家屋全壊22棟、床上床下浸水52棟、橋梁流出2か所、田畑90Haに土砂が堆積する大きな被害が発生した。

復旧については総事業費67億7千万円で、平成30年に完成している。しかしながら、地震動により漏水が発生しており調査のうえ今後、対策工事を計画していくことになる。

本市でも、南海トラフ地震を控え、ため池の耐震化を急ぐ必要がある。

AM～PM田村市 あぶくま洞

昭和44年に開洞。石灰石の採掘時に発見されたようであるが、施設は採掘跡を整地して設置されている。運営は開発公社であり、プラネタリウム付きの天文台が設置されており、開洞10年間ぐらいは年間の入洞者数が100万人ほどであったが、年とともに漸減し、震災前の30万人から、現在では20万人に落ち込んでいる。鍾乳洞の規模は龍河洞よりも大きいですが、問題、課題は同じである。

PM いわき市久ノ浜・大久地区まちなか再生計画、いわき市地域防災交流センター久ノ浜・大久ふれあい館、夏井川水害現場

まちなか再生計画は、平成23年3月11日の東日本大震災により、津波と火災により甚大な被害が発生。地区の復興と将来に向けた新しいまちづくりの目標、施策、方策を共有し生活基盤安定のため商業機能の回復を実行するために策定されたものである。(別紙再生計画参照)

いわき市地域防災交流センター久ノ浜・大久ふれあい館

災害時の防災拠点機能といわき市役所支所、公民館のまちづくり活動拠点機能を一体化。津波の教訓を後世に伝える資料室が設置されている。

当地区は海岸沿いであり、津波の被害をもろに受けており、また、火災の発生で壊滅的な被害を受け、現在は新築家屋が多い。福島原発の原子力災害もあり、平成23年から24年にかけて人口が500人減少している。

おもな産業は久ノ浜漁港を拠点とする漁業及び水産加工業であったが、現在は農林業が主となっており、雇用の場が少ない。

久ノ浜漁港は放射能の影響で再開できていない。また、漁業者は船が命であるがそれ自体が被災しているため、新造するにしても融資を受けるための担保となる財産が、被災した土地、家屋しかないこともあり、生きるために必死であり非常に苦勞しているということである。

夏井川水害現場

家屋の全壊、半壊はほとんど見受けられなかったが、床上、床下浸水の被害が大きい。災害ごみも路地に入るとほとんど手つかずで、空き地、公園等には山積み状態であり、生活環境の悪化が懸念される。

水稻はほとんどが刈り取り後であり、被害は少ないように見受けられた。

ただ、広範囲の耕地が浸水しており、大型高軒高ハウスが壊滅的な被害を受け、復旧も未だ手つかずの地域も見受けられる。

通行止めとなっていた道路については、現在では復旧も進み一部を除いて道路網は確保されているようであるが、夏井川沿いの鉄道の一部は、未だ流出路盤の復旧工事が急ピッチで行われている。

考察

東北地方の水害は、河川の流域が高知県に比べて非常に広く、しかも河川勾配が緩い、流路が長い、過去に湧水地帯であった地域が広範囲に耕地として開拓され集落が発達してきた経緯があり、そこに宿命的な弱点がある。特に平野部の河川敷には土砂が大量に堆積し、流木が繁茂して流水を阻害しており豪雨時には氾濫する危険性が大である。堤防の整備も延長が長いため遅れている。

解決するには長い年月と、莫大な経費が必要となるため、一朝一夕には解決できるものではなく、避難基準、避難場所等のソフト対策を早急に充実改善する必要がある。

水害対策については本市の場合、物部川の改修が進んでおり、上流部のダムによる洪水調整もこれまでは問題なく行われてきた。

しかしながら、来るべき南海トラフ地震では、物部川を遡上する津波の影響で破堤する危険性もあり、また、想定外の豪雨による堤防の越水、決壊の危険性は皆無ではない。

住民の防災意識の啓発、避難訓練等を通じて被害を最小限にとどめる努力が今以上に必要である。

南海トラフ地震では、本市は津波の直接的な被害はないものと考えられるが、海岸沿いの市町村は壊滅的な甚大な被害が予想され、本市に避難民が殺到することが想定される。

香美市民のみならず、他市町村からの避難民をどうやって受け入れるのか、避難場所、仮設住宅の場所はどう確保するのか。分散すればするほど電気、ガス、下水処理、飲料水の供給には困難が伴う。

香美市の公共施設、避難所だけでは受け入れが不可能であると考える。
仮設住宅の建築場所はどこにするのか、

現実的な選択肢として、農地の活用が考えられる。
耕作物の損害補填、収入保障、用地借り上げ期間の固定資産税の免除等を条件に、あらかじめ地権者との協議を始めるべき時期に来ているのではないかと。

2019 年 11 月 18 日

御請求書

香美市議会議員市民クラブ御中

〒782-0051

高知県香美市土佐山田町楠目 446-2

依光瓦工業(有)旅行部門

高知県知事登録旅行業 3-117

シースカイ・サポートトラベル

Tel 090-3189-9553 FAX 0887-52-9588

担当 依光

請求金額 ￥695,440

毎度格別のお引立てを賜り厚く御礼申し上げます。

下記の通りご請求申し上げます。

ご旅行先	福島県 郡山市・いわき市	ご旅行日	2019 年 11 月 11 日～13 日
------	--------------	------	-----------------------

種 別	単 価	人員・数量	金 額	摘 要
ANA 航空券（高知～東京）往復	40,800	8	326,400	
JR 券（羽田～郡山・いわき～羽田）	15,430	8	123,440	
貸切バス代（郡山・いわき）小型	10,800	8	86,400	
宿泊代（郡山・いわき）2 泊朝食付	18,400	8	147,200	
取扱手数料	1,500	8	12,000	
合 計			695,440	

お振込の場合は、下記の口座にお振込み下さい。

*振込先

ヨリミツカワコウギョウケンカイヤ

四国銀行 山田支店

普通

依光瓦工業有限公司

（シースカイ・サポートトラベル）

*お振込手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。 *お振込受取書を持って当社の領収書に代えさせていただきます。

1-0038601
議合事務局

議事會事務局

1. 11. 19 市美春 會計課

※この領収書は、大切に保管して下さい。

領 収 証

香美市議会議員市民クラブ様

金 額	百 万	千	円
	¥ 695	440	-

但し 福島県視察交通宿泊費等

2019 年 11 月 25 日 上記金額正に領収致しました

内消費税

現 金

小 切 手

手 形

振 込

シースカイ・サポート **トラベル**

〒782-0051 高知県香美市土佐山田町楠目446番地2

依光瓦工業(有) 旅行部門

TEL 090-3189-9553 FAX 0887-52-9588



No. _____

領 収 証

香美市市議会議員視察団 様

金 額									
				4	3	3	0	0	

但 小型バス 高速料金立替
R1 年 11 月 12 日 上記正に領収いたしました

税務署 香美市 富田町 字 天長南 30 番地 21
 伸英交通株式会社
 代表取締役 鈴木 孝
 TEL 024(983)1540

内 訳
 税抜金額
 消費税額(%)

領収証 No.5

1人300円

領 収 証

香美市市議会議員 様

金 700 円

但し、「東日本大震災 久之浜・大久証言集」(/ 冊) 購入費として
 領収いたしました。

令和元年11月12日 久之浜・大久地区復興対策協議会
 会長 木 田 寿 夫

市民クラブ

